

# Salon d' AALA

サロン

ダーラ

2019. 4. 1.

No.113

## 伊 根 通 信 ～ X バンドレーダー基地は

### 山根 朝子



今年は珍しく雪のない冬を過ごしています。新井崎漁港ではお正月を過ぎて からですが、鰯の大漁で久々の大漁旗がはためき、活気にあふれました。組合員には鰯の配給もあり、10キロを超える鰯の料理は私の手には負えず、いどこに頼んで裁いてもらい、友人知人と大漁をお祝いしました。雪がないのは田舎での暮らしにはありがたいことなのですが、困ったことに猿の軍団が畑を我が物顔に闊歩し、大根やら白菜やら、何もかもを食べ尽くすという惨劇に襲われています。猿たちも食べるものがないので仕方がないと思うのですが、「あと数日で収穫しよう

と思っていた矢先に全滅の事態になるのですから、腹が立つやら、情けないやら、これまでの苦労が泡と消え、心が折れてしまっています。

そんな折、aala から「伊根便り」の依頼があり、X バンドレーダー基地についても触れてほしいとのこと。思い出すのは、昨年5月に伊根町内での交通事故のことでした。この事故ではドクターヘリが出動し、米軍にX バンドレーダーの停波を要請しました。5分後米軍は「停波承認」と回答しましたが、その7分後「停波不能」と変更。その時すでにドクターヘリは「飛行制限区域」に入っており、また、4キロ離れたヘリポートが新たな合流地点となったため、人命救助は17分も遅れ、ヘリや搭乗していた医師、看護師、操縦士らはレーダーの強力な電磁波にさらされる事態となりました。

いま、基地はどうなっているのか、現地に向かいました。伊根町から京丹後市へと車を走らせていくと、昨年の台風か豪雨によるものか路肩が崩れ注意を促すコーンが並んでおり、修繕工事による片側通行が行われていました。伊根町でも新井地区から泊地区への生活道路が土砂崩れにより2月末まで通行止めで、迂回路は倍近く時間がかかり大変不便を感じています。ほかにも災害の爪痕は至る所に見られ、復旧まだまだです。

途中の「にしがき宇川店」は閉店していました。買い物弱者の問題は伊根町でも深刻です。

自衛隊駐屯地は大きなレーダーが2基もできていて、米軍基地は拡張され、また何か大きな施設ができるのでしょうか、クレーンが鉄筋を組み立てていました。

2年ほど前に来たときは基地の隣で畑をされていたおばあさんに話を伺うことができましたが、今はその畑は基地に吸収されていました。

穴文殊にお参りすると、京都ナンバーの車から高齢のご夫妻が降りてこられました。「いいところですね」「周りの建物は全くミスマッチですね」と、少し言葉を交わしただけですが、



丹後半島の雄大な自然とひとびとの暮らしをじわじわと破壊していく不気味さをお互いに感じ合えたように思えました。友人にこの様子を話すと、「宇川温泉にはよく行くけどそのたびに基地は拡大している。わかりにくいけど海側の方もひどいのじゃないか」と嘆いていました。寒い中でも庭の紅梅には春を感じます。命の息吹く季節に、丹後半島の田舎からも、暮らしや平和を守る行動の盛り上がりを作っていかなければならないと思っています。できることをコツコツと。

## スリランカをちょっと訪問

田 辺 晃 生

昨年、冬、寒さにふるえ熱帯に逃げ出した。インド源流の仏教にかかわる姿をかなり残していると言われる仏跡が多く、また各時代の王朝の都、特に巨大な岩山の上に王宮を作ったといわれるシーギリアなど世界遺産のある「紅茶の国」スリランカ（旧セイロン）を訪ねたのである。

前号からの続き

### 2) キャンディー：最後の王朝の都 AD15C~19C

やや高地なので涼しく、おそらくイギリスの植民地時代に作られたと思われるヨーロッパ風の建物が人工の湖の周りに広がる。ここに仏陀の残した歯が納められている寺院・仏歯寺があり、世界遺産になっている。社会見学している生徒たちも白の制服を着て礼儀正しく晴れやかな面持ちであった。

①



②



①・② 仏歯寺にて社会見学する生徒たち

③



④



③キャンディーの街並み

④仏歯寺内部

### 3) ペラヘラ祭り

キャンディーでの7月の祭りが一番華やからしいが、コロンボで2月に大規模な祭りを見学できた。何十という地域からやってきたそれぞれの集団が独自の衣装と振付で市街を練り歩き、また着



飾ったゾウ達の行進の最後を飾るトリは仏舎利を乗せたゾウだ。このような祭りを見ていると、政府が仏教と結び付けたお祭りとしていることは全く牽強附会といってもいいような気がする。原始的情動の発露が長年にわたって洗練されてきた結果なのであろう。

①



②



③



④



⑤



①キャンディーダンス、②、③華やかな部族衣装を身に着け踊りながら練り歩く  
④、⑤衣装を着けたゾウも多数出場、行列の最後に仏陀の舎利を担いだゾウの行進

## 自然と楽園

**熱帯地域：**熱帯に期待するのはうっそうたる樹林、華やかな花々、色とりどりの多様な果物などであろう。珍しい野鳥や昆虫・動物たちも興味をそそる。ツアーの一切を取り仕切っていたのは現地ガイド兼コンダクターのレナード氏だ。岩山を登る途中でへこたれた者、おなかの調子が急に悪くなった者、帰りの E チケットをうっかり処分してしまった者など続出したが、てきぱき処理をした手練れだ。彼は道路わきにある馴染みの店でバスを止めてはヤシの実やマンゴーの試食を体験させてくれた。完熟果物のおいしさを実感。また特産カシューナッツの地元格安店も紹介、こういうことのできるのが現地ガイドの強みだ。

①



②



③

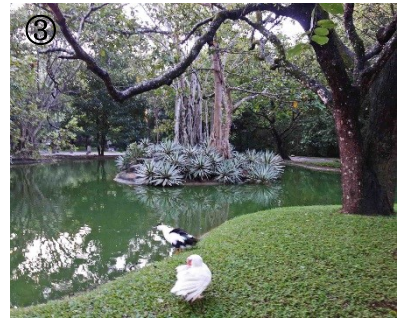


①ヤシの実でのどを潤す現地の人たち、②国立公園内で、小ゾウを挟んで移動する親たち、200 頭ほどいるらしい、③雨に濡れた野生のクジャク

**ホテル：**①のホテル名 Tree-of-Life は生物進化の系統樹のことだと思っていたら、リンゴを食べてエデンの園を追放されたアダムとイブの話が旧約聖書にのっているが、実は「生命の木」に手を付けられないようにするため追放された、という話につながる。またカンヌで賞を与えられた映画

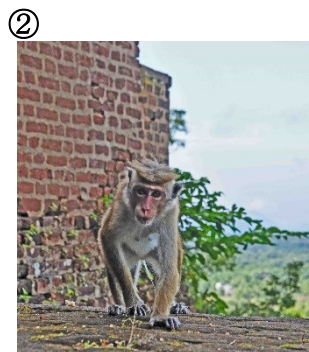
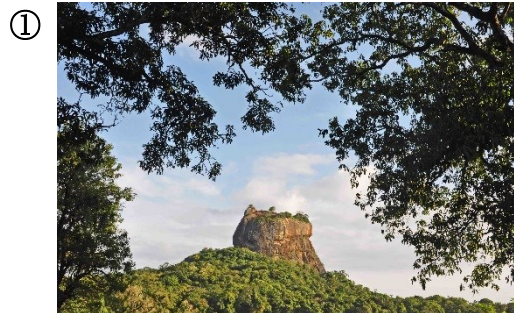


の題名にもみられるが、このホテル名は楽園のイメージだろうか？やって来る野鳥が 20 種類くらい紹介されており、また熱帯系の“濃厚な”花々があちこちで見られる。敷地の横に広がる茶畑は、イギリスの植民地時代に栽培が始まったセイロン紅茶の茶畑である。コーヒーが病気で全滅した代替として栽培されたものだともいわれている。シーギリアの Village-Hotel③もエコにあこがれる欧米人好みの自然に溶け込んだホテルだ。部屋はコテージ風で密林の中に点在し、散策しながら食堂に集まるスタイルである。野鳥や大リスが見られた。



①キャンディー郊外のホテル Tree-of-Life の佇まい、②茶畑が広がる（手前の巨木の後ろ）、③シーギリアの Village-Hotel の庭園

**岩山の王宮シーギリア：**今回のツアーの目玉だ。AD5C 頃、野心から父親を殺して王位に就くも、弟たちの追及を恐れて岩山の上に王宮を建設したカッサバ王。すぐに滅び、千数百年後に密林の中から発見された栄華の跡をわれわれは楽しんでいるのである。砂漠や密林の中で古い都の跡が発見されてきた歴史は、冒険家たちの活躍を浮き彫りにするが、小説や映画の題材としても生かされてきたのは周知の所だ。



①はホテルを出発してすぐの所で、朝日に輝く岩山王宮跡を垣間見る、あの頂上に登るのだと考えると気が高ぶる。②サルが闊歩、③岩山頂上からの眺め、写真右手の頂上部に王宮の建物跡があって、一段下がった左手には大きなプールが作られており、王や侍る女たちが身を清めたものと言われている。どのように水を頂上に運んだのか、いろいろ説があるようだ。

**薬草園：**各種ハーブと植物系オイル、ココアやバニラエッセンスを配合した飲み物など、健康増進が売り物の薬草園で一休み。ココアを牛乳にとかしバニラ液を 1~2 滴入れると何とも穏やかな甘みの飲み物で、日本で販売されているココアと大きな違いだ。特に健康に特化した品は古代から受け継がれた伝統の処方で調合されているようで、漢方薬の処方とよく似ている。写真の男性は日本語堪能の研究者か、オイルの適正濃度・性状を説明中。



帰国すると気温も通常でほっとした。年を取ると、適正な温暖さ、仏教遺跡、発展途上国の子供たちの笑顔などで癒されることを痛感した。しかし今回のツアーはタイ経由であったが、スリランカ行きは冷遇されているのか待ち時間がやたら長く、深夜のホテル到着となった。現地で出会った中国経由の旅行者に聞くと、そちらは適正な到着時間らしく、最近の中国との緊密な経済的連携が反映されているのかもしれない。（終わり）